

実践をめぐる省察的対話を支援する観察記録の方法

刑部 育子・植村 朋弘・戸田 真志

Development of a method for recording the observation to serve the subsequent reflective conversation in educational practice

GYOBU Ikuko, UEMURA Tomohiro, TODA Masashi

Abstract

本研究は実践をめぐる観察中および観察後の省察的対話を支援する観察記録の方法を探求した。まず、観察と省察の関係について述べ、観察中と観察後の省察の課題を提示した。この課題を解決するため、従来の言語中心の記録法からビジュアルシーン（映像場面）を単位とした記録法を支援する観察ツールの試作、拡張を行った。開発した観察ツールを教育現場で使用、実証し、このツールが観察中のその場の気づきである「瞬間リフレクション」と観察後の他者と共に共有し議論し合いながら記録の意味を発展させる「集合リフレクション」に有効であることを示し、本研究で提示したビジュアルシーンを単位とした観察記録の方法が両リフレクションにおいて省察的対話（reflective conversation; 現実場面とその解釈の妥当性の吟味）の深化を支援することを示した。最後に、開発された観察ツールは長年の現場の観察研究の必然性から生み出された道具であり、道具が省察活動を変えうる可能性を示した。

Key Words: observation tool, reflective conversation, quick-reflection, collective reflection, visual scene, joint attentional scene.